

Word ワンポイント講座

テキストボックスの便利ワザを使ってみよう

Word のテキストボックスは、本文から独立した文字枠、文字列をブロック単位で自由に配置できるので、囲み記事の作成、写真のキャプション表示、タイトル文字の装飾など、文書内での出番は多い。

そこでテキストボックスを効率よく操作する方法、表現力を高めるテクニックなど、覚えておくと便利なワザを紹介する。

例えば、テキストボックスはドラックで描くと思われがちだが、実はクリックでも作成できる。文字枠の図形を四角以外に変更したり、図形だけを回転したりして、デザインに凝るのも面白い。



図1



図2



図3

図 4) テキストボックス以外の図形を選んでクリックすると、縦横のサイズが同じ図形（ここでは正円）が作成される。そのままキーボードから文字列を入力すると、図形の中央に表示され、文字枠として使える。（図形の種類によっては縦横サイズが異なるものもある）

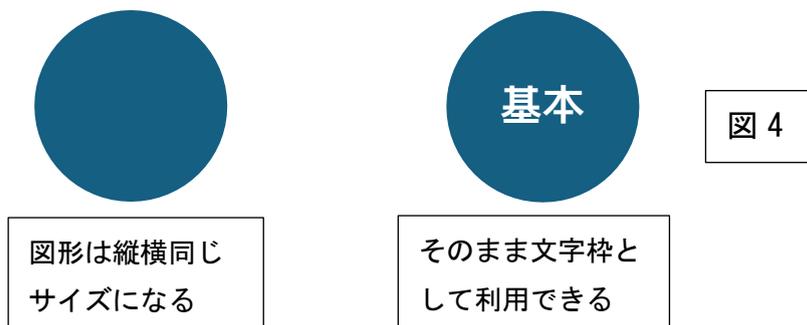
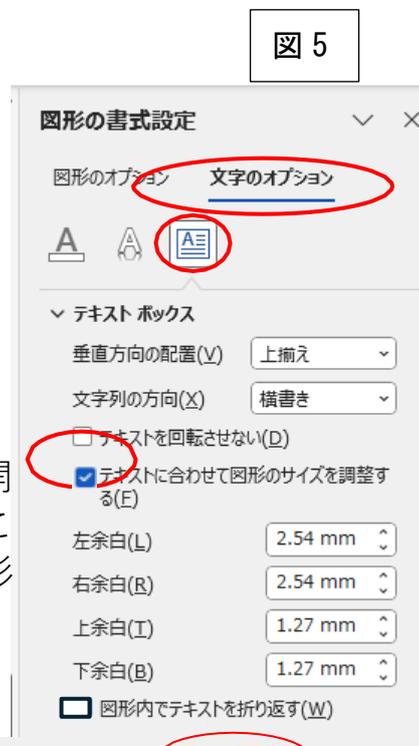


図 5) 下記のテキストボックスを選択し、右クリックから「図形の書式設定」→文字のオプション→レイアウトとプロパティ→テキストボックスのスタイルを設定する。



基本から学ぶ資産運用

「テキストに合わせて図形のサイズを調整する」をオンにすると、文字枠のサイズが文字列に合わせて自動調整される。

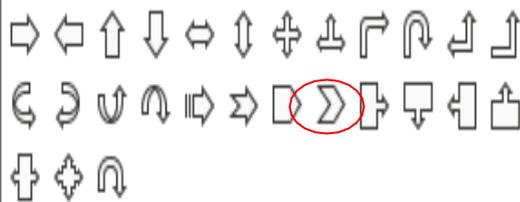
図 6) 「図形の書式」タブの「図形の編集」メニューを開き、「図形の変更」サブメニューから変更後の図形（ここでは「矢印：山形」）を選ぶ、テキストボックスの四角形が選択した図形に変わる。白いハンドルで図形の形を調節すると、すべての文字列が表示される。



基本から学ぶ資産運用

図形が変わる

基本から学ぶ資産運用
基本から学ぶ資産運用

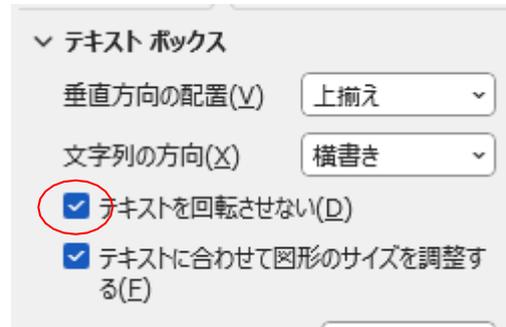


文字枠の図形だけを回転する

図 7) 回転ハンドルをドラッグしてテキストボックスの角度を変える。
文字効果の設定で「テキストを回転させない」をオンにすると文字列はそのままでテキストボックス枠だけが動かせる。

基本から学ぶ資産運用

図 7



基本から学ぶ資産運

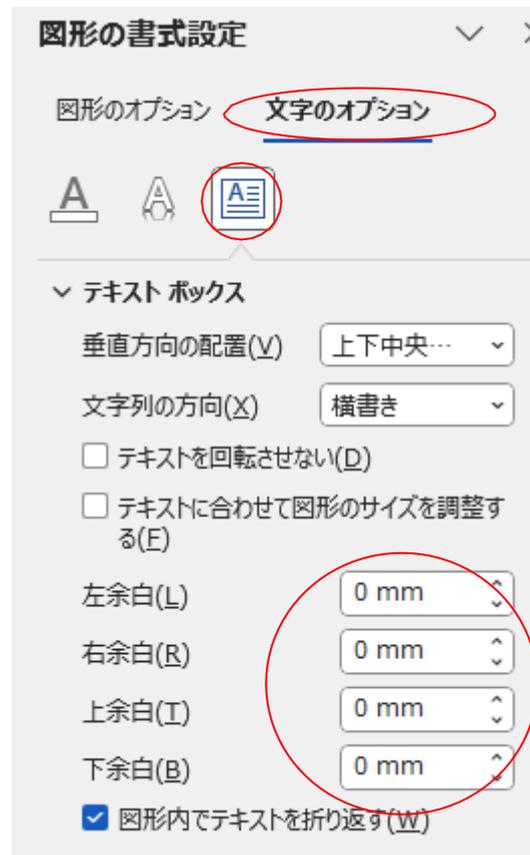
文字列の表示領域を広げる

図 8) 図形内に文字列が収まらないときは、「文字のオプション」画面の「レイアウトとプロパティ」でテキストボックス内の余白を確認する。上下左右余白を 0mm にすると文字列が収まる場合がある。

基本から学ぶ

図 8

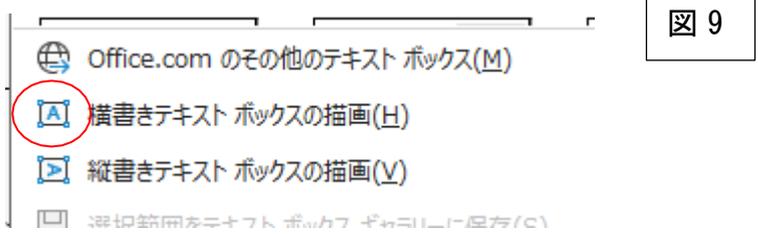
基本から学ぶ資産運用



入力済みの文字列をテキストボックスに変換する

図9) 「**テキストボックスで表示する文字列**」を選択し「挿入」タブ→テキストボックスメニュー→横書きテキストボックス描画→テキストボックスが作成される→選択した文字列がスタイルを保持したまま移動する。

入力済みの文字列をテキストボックスに変換する
図9) テキストボックスで表示する」文字列を選択し、「挿入」タブ→テキストボックスメニュー→横書きテキストボックス描画→テキストボックスが作成される→選択した文字列がスタイルを保持したまま移動する。



テキストボックスに文字列が移動する

入力済みの文字列をテキストボックスに変換する

図9) テキストボックスで表示する」文字列を選択し、「挿入」タブ→テキストボックスメニュー→横書きテキストボックス描画→テキストボックスが作成される→選択した文字列がスタイルを保持したまま移動する。